研究セミナー

第１回　実施要領

日時　2011 年 12 月 22 日（木）午後 6 時～8 時
場所　大学院国際文化学研究科 E 棟 4 階　学術交流ルーム
報告　ベルギーにおける多文化共存の諸相
　　三田順「ベルギー・オランダ語文学におけるフランス語文学受容
　　――カーレル・ヴァン・デ・ウーステイネとベルギー象徴派を例として」
　　岩本和子「越境する芸術家ヒューホ・クラウス――民族の記憶と前衛性」

報告概要

ベルギー・オランダ語文学におけるフランス語文学受容
――カーレル・ヴァン・デ・ウーステイネとベルギー象徴派を例として――

三田順

ベルギー・オランダ語文学における唯一の象徴主義者として知られるカーレル・ヴァン・デ・ウーステイネ（Karel van de Woestijne, 1878-1929）は批評家としても多くの文学論、美術論を残しているが、興味深いことにベルギー象徴派として知られる同郷のベルギー・フランス語話者作家については概して否定的な評価を下している。本発表ではベルギー象徴派を代表するジョルジュ・ローデンバック、エミール・ヴェラーレンについての批評を取り上げ、その批判の背後にあるものをヴァン・デ・ウーステイネの象徴主義観とベルギー・オランダ語文学史との関連から考察した。

19世紀末のベルギーで花開いた「ベルギー象徴派」を担っていたのは主にフランス語話者のヴラーンデレン人作家であった。フランス語で執筆した彼等はヴラーンデレンの地域性を強調した作品を書くことでフランスに対するベルギーの独自性を獲得し、パリで大きな成功を収めることができた訳だが、ヴァン・デ・ウーステイネはフランス語で執筆するヴラーンデレン人を「根を奪われた」、「見せかけの」ヴラーンデレン人と揶揄し、「神秘性」や「官能性」といった言葉に要約される、恣意的な地域性の誇張を批判している。ヴァン・デ・ウーステイネにとって象徴主義は安直な地域主義を排除する普遍的な美学であり、それ故に国際的な評価を得ていたローデンバック、ヴェラーレン、マーテルランクといったベルギー象徴派を代表するヴラーンデレン人作家達を象徴主義者としては高く評価していなかったのである。

この背景には、「〈北方的な〉フランス語話者文学」というアイデンティティーを見出したばかりのベルギー・フランス語文学と、既にナショナリズムと結びついた地域主義的文学の伝統を有していたベルギー・オランダ語文学間の齟齬があった。1890年代、ベルギー・オランダ語文学の近代化を求めた新しい世代は、長くヴラーンデレン運動と結びついた地域主義的文学からの脱却を図り、ヨーロッパ的たらんと欲した。ヴァン・デ・ウーステイネにとって象徴主義はその為の手段であり、近代ベルギー・オランダ語文学をヨーロッパ先進国の水準まで高めるがため象徴主義に普遍的な美学を求めたのである。

※岩本和子講師の報告内容については第一部に掲載された同名の論文を参照のこと。また、三田順講師の関連論文も第一部に掲載している。

第２回　実施要領

日時　2012 年 1 月 24 日（火）午後 5 時 30 分〜7 時
場所　大学院国際文化学研究科 E 棟 4 階　学術交流ルーム
報告　中谷文美「『組み合わせ』の技法――オランダ社会におけるワークライフバランスの実践」
コメンテーター　青山薫

※報告内容については、第二部に掲載された研究ノートを参照のこと。

第３回　実施要領

日時　2012 年 2 月 13 日（月）午後 4 時〜5 時 15 分
場所　大学院国際文化学研究科 E 棟 4 階　学術交流ルーム
報告　松井真之介「フランスのマイノリティにおける言語教育――ブレイス語のディワン学校と在仏アルメニア学校を例に」

※報告内容については、第一部に掲載された論文を参照のこと。